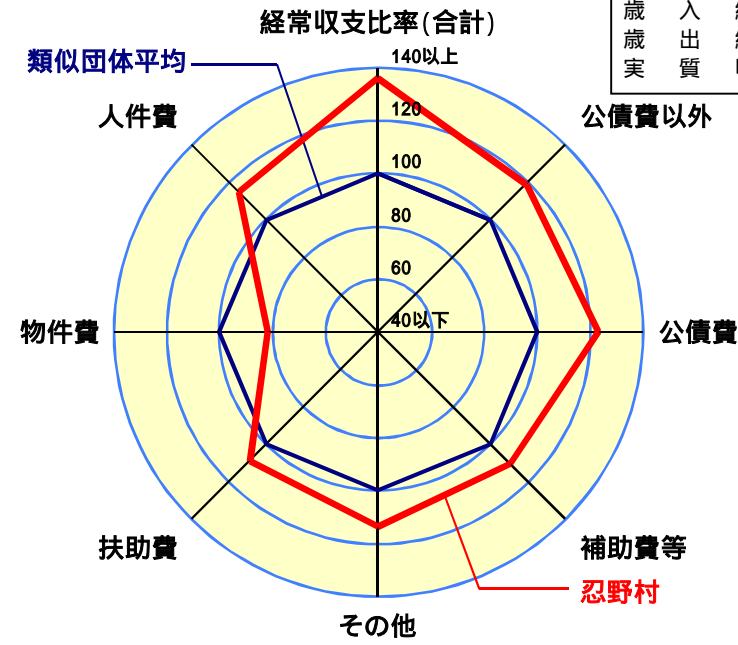


歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

経常収支比率の分析

人口	8,811人(H21.3.31現在)
面積	25.15 km ²
標準財政規模	4,446,549千円
歳入総額	5,403,795千円
歳出総額	5,126,211千円
実質収支	219,145千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費 : 類似団体平均と比較すると、人件費に係る経常収支比率は低くなっている。今後も行財政改革への取組を通じて、人件費の削減に努める。

物件費 : 物件費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、さかな公園・四季の杜おしの公園などの施設運営を直営で行っている事が主な要因である。今後は、民間でも実施可能な部分については、指定管理者制度の導入などにより委託化を進め、コストの低減を図っていく。

扶助費 : 扶助費に係る経常収支比率が低くなっているのは、類似団体等に比べると生活保護費等の額が少ない事が挙げられる。今後、急激な増加が予想されるなか、財政を圧迫しないように努める。

補助費等 : 補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を下回っているのは、各種団体への補助金の見直し・縮小化等による。今後も補助金を交付するのが適正か審査等を行い、不適切な補助金等の見直しや廃止を行う。

公債費 : ここ数年の起債抑制により類似団体平均を下回っている。今後、杓子山南麓開発事業等を実施するに当たり新規の地方債発行が見込まれる。この事から他事業における地方債発行の抑制等により類似団体を上回る事のないよう努める。

その他 : その他に係る経常収支比率が類似団体平均を下回った。しかし、昨年度を1.2も上回った。今後、特別会計への赤字補てん的な繰出金が多くなると思われるが、普通会計の負担額を減らしていくよう努める。

